

[◀◀ HOME](#)

## 競技情報

[中部アマチュア](#)[中部ミッドアマチュア](#)[中部女子アマチュア](#)[中部シニア](#)[中部オープン](#)[中部グランドシニア](#)[中部ミッドシニア](#)[中部女子シニア／](#)[中部女子グランドシニア](#)[中部インタークラブ](#)[佐々部杯](#)[中部アンダーハンディキャップ](#)[中部小学生](#)[中部ジュニア](#)[中部学生](#)[中部シニアオープン](#)[過去の競技](#)[2019年](#)[2018年](#)[2017年](#)[2016年](#)[2015年](#)

### 中部学生・1R成績表・2R組合せ表 記事 掲載

平成30年度（第48回）中部学生ゴルフ選手権競技

開催日／平成30年8月9日（木）・10日（金）

会場／さなげカントリークラブ

参加人数／男子102名（内欠場1名）、女子26名（内欠場1名）

距離／男子 6530ヤード PAR70、女子6060ヤード PAR72

天候／1R晴れ

【第1日】

[男子・成績表（PDF）](#)

[女子・成績表（PDF）](#)

[第2日組み合わせ並びにスタート時刻表（PDF）](#)

#### 酷暑の第1日。

**男子首位は5アンダー、福井工大1年の織田信亮選手。**

**女子首位は2アンダー、愛知大2年の酒井里奈選手。**

今年の中部学生は、愛知県のさなげカントリークラブが舞台。第1日は、朝から日差しは強く、38度越えの酷暑となった。そのため、例年と異なり、インターバルだけでなく、全てカート乗用が認められた。



今回の設定は、さなげカントリークラブの2グリーンのうち、バミューダ芝のグリーンを使用。日頃はベント芝に慣れている学生たちにとって、バミューダ芝は馴染みが薄く、練習グリーンでパッティングしていても、転がりや芝目など「難しい」という声が多く聞かれた。また、距離は男子は6530ヤード、パー70、女子は6060ヤード、パー72。

中部学生は個人戦ではあるが、大学ごとに「今日の色」を決めて選手たちが着用しているので、遠くから見ても一目瞭然。さながら団体戦のようである。



## ◆男子◆



首位に立ったのは、織田信亮選手（福井工大1年）で5アンダー65。6バーディ1ボギーの素晴らしい内容だった。2位は1打差の4アンダー66で、加藤陽輝選手（中部学院大2年）と作田大地選手（金沢学院大3年）の2人、さらに1打差の3アンダーに青山晃大選手（中京大1年）、そして2アンダーに水田竜昇選手（中部学院大1年）と横井優星選手（福井工大2年）といずれも力のある選手たちで大学もさまざま。またイーブンパー70までに14人とレベルは高く、この中に、昨年のチャンピオンの三島泰哉選手（中部学院大3年）、一昨年のチャンピオンの上田敦士選手（名古屋大3年）も入っている。明日の決勝ラウンドは混戦が予想される。日本学生への出場権は上位13人だ。

今回の参加大学と人数は次の通り。

<男子 102人>

中部学院大 21人	愛知学院大 17人	愛工大 15人
福井工大 13人	中京大 8人	名商大 7人
金沢学院大 5人	名城大 5人	名古屋大 3人
中部大 2人	愛知大 1人	南山大 1人
日福大 1人	名経大 1人	四日市大 1人

## ◆女子◆



25人の出場と少し寂しい感じもする女子の部。愛知大2年の酒井里奈選手が2アンダー72で首位、1打差の71に同じく愛知大3年の嶋貴友紀選手、上位に愛知大学勢がくるという昨年の大会に似た展開となった。3位には1オーバーの円角有希選手（中部学院大2年）と清水友莉耶選手（中京大3年）が続いている。日本女子学生への出場権は6人。女子の部も明日は混戦となることだろう。

<女子 26人> 参加大学と人数

愛知大 6人	愛知学院大 6人	中部学院大 5人
名商大 3人	福井工大 2人	中京大 2人
金沢学院大 1人	南山大 1人	

## &lt;インタビュー&gt;

**男子1位****織田信亮選手 (福井工大1年) 65=30、35**

アウトからスタートし、1番、3番、6番、7番、9番でバーディノーボギーで折り返した。「前半はドライバーがよく、責めることができた。アイアンもよくついたしパッティングも良かった」と絶好調なゴルフを展開した織田選手だったが、「後半はコース自体も難しいこともあったけど、距離のあるパーパットが残って、しのいだ、耐える方になりました」と15番までパーセーブした後、16番

でバーディとするも続く17番でボギーで、イーブンとした。

耐えながらもイーブンパーでまとめた織田選手はこのところ、「ノっている」。中部オープンでアマ2位になると、翌週の北陸オープンではベストアマ、錚々たるプロたちに混じって総合3位の成績を上げた。「ショットが良くなつて自信がついた」ことで我慢強くなってきた。慌てなくなってきた。好調キープで明日の決勝ラウンド、大学1年の夏に、栄冠を狙う。

**男子2位****加藤陽輝選手 (中部学院大2年) 66=32、34**

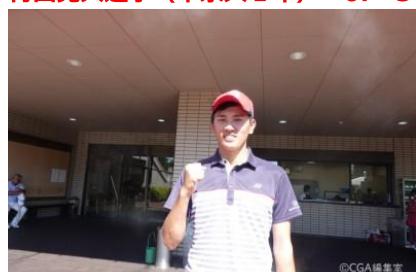
インからスタートし、最初の13番ショートホールで左のバンカーからチップインバーディを奪った。「あれで気持ちが乗つた」と言う加藤選手は、実に7バーディを奪った。しかし、17番のショートホールで、右バンカーからうまく出せずにダブルボギー、後半の6番でのボギーも響いて、4アンダーでフィニッシュした。

「ドライバーはスライスばかりでしたが、アイアンが良く、しかもバーディパ

ットが良く決まりました。下りラインは難しくなるので、下につけることを意識していました」。

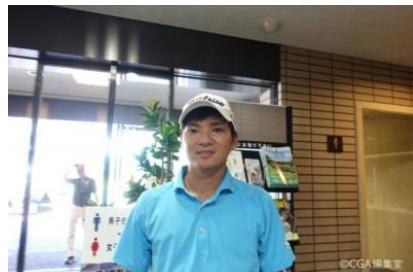
**男子2位****作田大地選手 (金沢学院大3年) 66=33、33**

インからスタート、5バーディ1ボギーだった。「今日はショットがよかったです。バーディは1メートルと、2メートルが2つと、4メートルでした。後半はずっとパーを拾い続けて、最後の7、8番でようやくバーディがきました」と笑顔の作田選手。ジュニア時代から活躍しているが、まだCGA競技での優勝はない。今年の石川県アマに優勝している勢いで、明日はてっぺんを目指す。

**男子4位****青山晃大選手 (中京大1年) 67=34、33**

「いつもドライバーにこだわって失敗してきたので、今日は、3Wを多用して、ゴルフを組み立て流と決めてスタートしました。それがうまくいったと思います」とホールアウト後、二コニコして戻ってきた。5バーディ2ボギーだった。確かに、ここ最近の青山選手のゴルフは、いいなと思うとどこかで大叩きしてスコアを崩していた。今日の作戦は成功した。「明日もドライバーが持ちたくない気持ちを抑えて頑張ります！！」。

**男子5位****水田竜昇選手 (中部学院大1年) 68=33、35**

**男子5位****横井優星選手（福井工大2年） 68=34、34****ディフェンディングチャンピオンは1アンダー  
三島泰哉選手（中部学院大3年） 69=35、34****2年前のチャンピオンはイーブンパー****上田敦士選手（名古屋大3年） 70=34、36****女子1位****酒井里奈選手（愛知大2年） 70=35、36**

女子は全員インからのスタートだった。出だしの10番Hと11番Hで連続バーディでいい流れを作った酒井選手。「今日はショットが良くて、2.3メートルにつけることができました。グリーンが難しいとわかっていたので、下りは3パットにならないように慎重にしました」。酒井選手は、昨年の大会でも初日に2位となり、最終組となっている。「去年はスコアを崩したので、明日は耐えていきます。優勝争いに最後までいられるようにしたい」。

**女子2位****嶋貴友紀選手（愛知大3年） 71=35、36**

**女子3位****清水友莉耶選手（中京大3年） 73=35、38**

嶋貴選手は5バーディ4ボギーだった。「ドライバーの調子は悪く、真に当たらない感じでした。バーディも外からのチップインや、短いのなので、5つも取つたのに、スッキリしていない気分です。去年は2日目に叩いてしまったし、その前の年は初日の朝に階段から落ちて捻挫したりと、中部学生はあまりいい思い出がないので、今年は明日に結果を出したい」。

清水選手は「前半の10番でダブルボギーして後はパー。後半は6番でバーディ、後はパーでした」。そう話す横から、嶋貴選手が「ものすごく飛ぶんです。今日も飛ばない人と100ヤードくらい違っていた」と言うと、「そんなには飛ばないけど、キャリーで230から240Yくらいです」と清水選手。仲良しな2人だが、清水選手は中1までゴルフをしていて一旦やめ、中京大に入って、再度始めたのだと。 「小さい頃に試合とかで会っていて知ってたんです。大学生になって、また試合で会ってびっくり。仲良くしています」。（写真、左が嶋貴選手、右が清水選手）

**女子3位****円角有希選手（中部学院大2年） 73=34、39**

7月中旬に大学の体育の授業中に左膝の靭帯を痛め、先週ようやく歩けるようになったばかりだという円角選手。ゴルフも久しぶりで、「ちゃんとできるか不安でした」と言うが、しっかりと3バーディを奪った。「グリーンは上からは早くで難しかった。ショットが曲がっているので、まずはまずのゴルフができました」。

[»List](#) [»競技情報Top](#)